

阪爪委員からの御意見

災害時に備えて私がしていること・不安に思うこと

① 自助（共助）として備えていること

- ・自宅の備蓄品として、食料、水、医薬品は約1～2週間、備品についてはものによって1～3ヶ月分保管しております。
- ・家族の安否確認方法、緊急連絡先の共有は、各自スマホに緊急連絡先を保存し、紙ベースでも携行しております。
- ・行政機関（熊谷市）に災害時要支援者登録は民生委員さんを通じて登録を済ませました。
- ・東京電力へ患者情報を事前に登録済み。停電時は発電機貸与申請について検討。
- ・地域コミュニティにおける情報交換について、地域のお祭りや体育祭などの行事を通じて、自治会や隣組と親交を深めてきました。

② 患者側として不安に思うこと

昨年の繰り返しになりますが、有時の際に避難となった場合、実際にどういった流れになるのか、連携について把握できていないこと。

具体的には、車イスでの避難が困難なため、

- ・救助の人が何人で来てくれるのか。
- ・家からの脱出はストレッチャーか、担架か。
- ・車輦はどうするのか。
- ・避難所では他の人の迷惑にならずに吸引器や人工呼吸器の機能は維持できるのか。

可能ならば避難訓練があるといろいろと課題点も浮き彫りになるでしょう。

もし家屋に被害があった場合は生活再建についても不安があります。

③ 日常生活で起きた「プチ災害（生活に支障をきたすちょっとしたトラブル）」への対応

呼吸器については予備が1台貸与されています。

バッテリーは2台常備。

吸引器故障の際は自宅から100m先の訪問看護ステーションさんに連携依頼。また万が一、介護者に不測の事態が生じ意識を失うなどの非常事態に陥った場合には、私から訪問看護ステーション所長さんにラインで連絡、救急車の

要請、預けてある合鍵で対応していただく手はずになっています。

プチ災害ではありませんが、先日家内がインフルエンザにかかり、避難のため初めてレスパイト入院を経験させていただきました。その際感じたこととして、会話でのコミュニケーションが難しいため、看護師さん用に看護、介護のマニュアルを作成した方がよいということです。特に半固形栄養剤用の加圧バッグは皆さん不慣れな印象でした。さらに肩や腕の下に挟むクッションも大小十数個にも及びます。図や写真を盛り込んで一目で分かるもの、そうすれば多くの看護師さんの戸惑いや齟齬を軽減できるはずです。この経験を今後に生かしたいと思います。

④ 最後に

これは全くの私見なのですが、先日鳥取・島根で地震がありました。その前は青森です。各地で地震がある度に自分の住んでいるこの地域は災害がなくて本当によい地域だと胸を撫で下ろします。災害が少ないということが、あたかも災害がこないといった妙な錯覚、エビデンスのない過信に繋がっています。もう少し危機感を持って日々の生活を検証していきたいと思います。